

2022年4月4日 全8頁

# 新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2022/4/4号）

個社データ・業界統計・POSデータで足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 鈴木 雄大郎  
エコノミスト 中村 華奈子

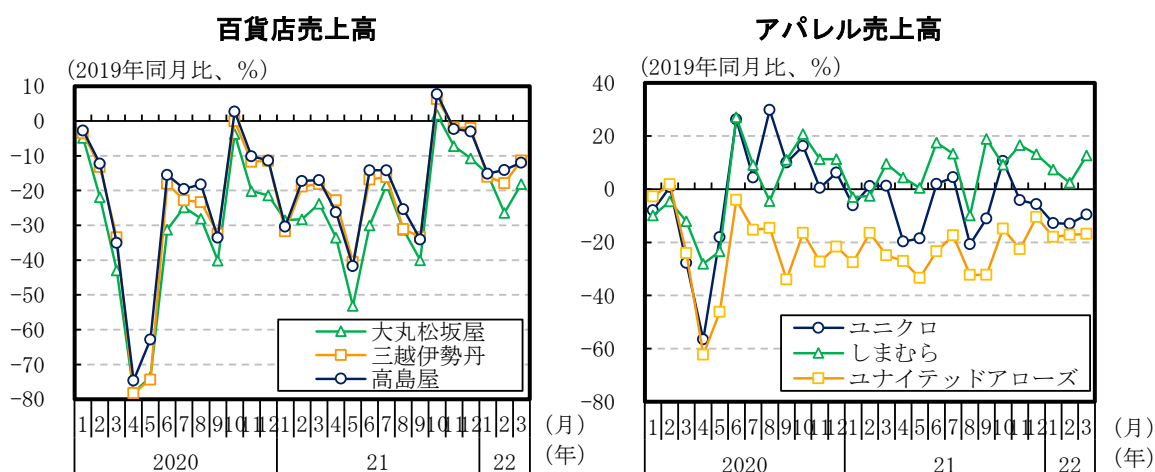
## [要約]

- 2022年3月の消費は2月から回復したとみられる。3月6日に13県でまん延防止等重点措置（以下、まん延防止）が解除されたものの、地方圏が中心であったため回復は緩やかなものにとどまったとみられる。まん延防止が全国で解除された3月下旬以降に回復が本格化したとみている。財消費は業種によってまちまちであった。百貨店や家電量販店は前月から改善したものの、スーパーなどはさえなかった。小売店・娯楽施設の人出は2月の中旬以降は緩やかに持ち直している。こうした動きを受け、外食・旅行・娯楽関連消費は回復したとみている。
- 【小売関連】2022年3月の大手百貨店3社の既存店売上高は感染拡大前である2019年同月比で約1~2割減となった。主要都市でのまん延防止の適用が21日まで続いたものの、天候要因（大雪）が剥落したことでマイナス幅は前月から縮小した。また白物家電の販売が好調だった家電量販店の売上高は前月比+4.5%と増加した。新車販売台数は同+5.2%と3カ月ぶりに回復したものの、生産調整の影響が残存しており、そのペースは鈍い。他方、スーパーはヘルスケア関連の販売が不調で同▲1.5%と前月から減少した。
- 【サービス関連】2022年3月前半の新幹線輸送量は2019年同期比で5~6割減と2月からマイナス幅が縮小した。2月の旅客機の国内線輸送量は2019年同月比で7割減と1月からマイナス幅が拡大したものの、計画比での減便率は4月には縮小する見込みである。またゴールデンウィーク期間中はおおむね計画通り運航する予定である。まん延防止が全面解除されたため、県をまたぐ移動は回復に向かい、宿泊や外食関連も持ち直すとみている。

## <小売関連>

- ◆【百貨店】 大手 3 社の 3 月の既存店売上高伸び率は新型コロナウイルス感染拡大前である 2019 年同月比で約 1~2 割減。主要都市でのまん延防止等重点措置（以下、まん延防止）の適用が 21 日まで続いたものの、天候要因（大雪）が剥落したことで 2 月からマイナス幅は小幅に縮小。
- ◆【アパレル】 3 月のアパレル 3 社の既存店売上高の伸び率は 2 月から上昇。まん延防止の解除に加え、春物、初夏物商品が好調。

図表 1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。

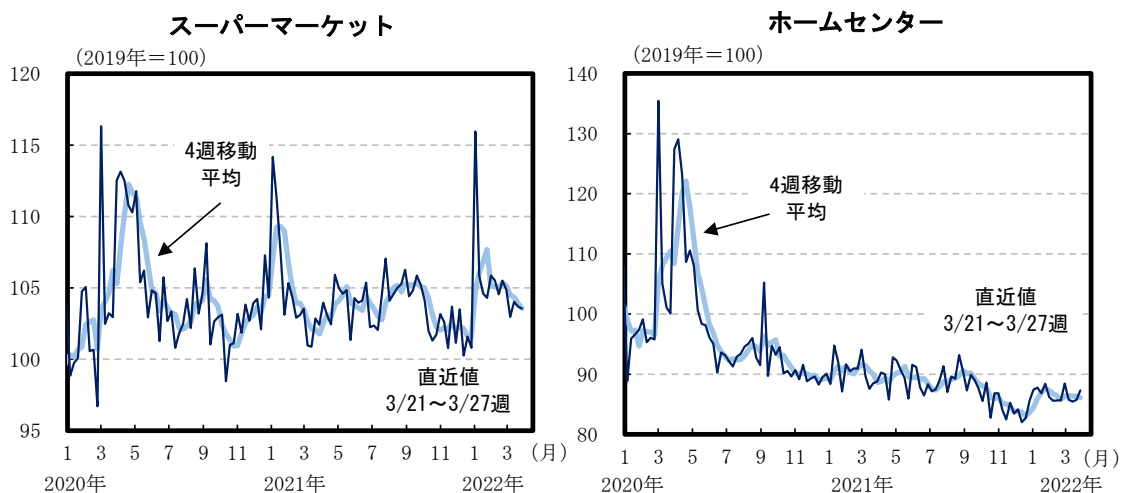
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、2020年10月以降はオンラインストア含む。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】 3 月の売上高は前月比▲1.5%（大和総研による季節調整値）。化粧品やヘルスケア関連が全体を押し下げ。
- ◆【ホームセンター】 3 月の売上高は前月比▲0.3%（大和総研による季節調整値）と小幅に減少。化粧品やヘルスケア関連が減少。

図表 2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

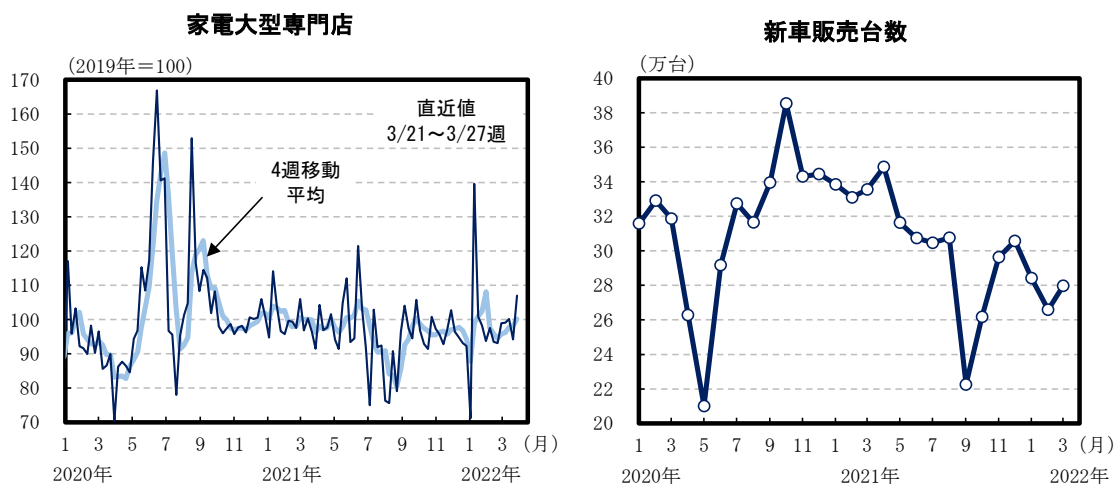


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】 3月の大手家電量販店の売上高は前月比+4.5%（大和総研による季節調整値）と前月の大幅減から反発。洗濯機やエアコンなど白物家電が全体を押し上げ。
- ◆【自動車】 3月の新車販売台数は前月比+5.2%（大和総研による季節調整値）と3カ月ぶりに増加。底打ちの兆しが見られるものの、生産調整の影響で回復ペースは鈍い。

図表3：家電・自動車の売上高



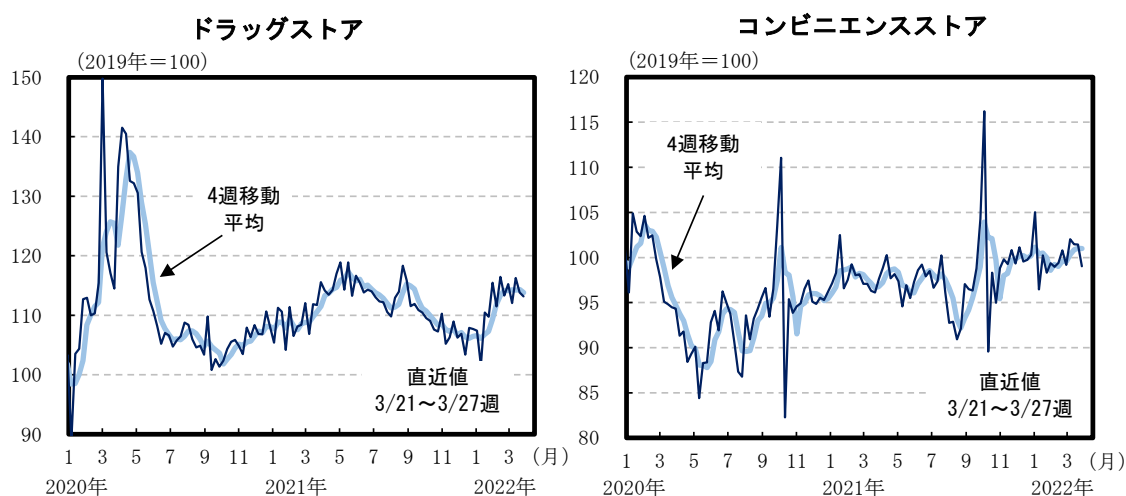
(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

- ◆【ドラッグストア】 3月の売上高は前月比▲0.3%（大和総研による季節調整値）と前月から小幅に減少。ヘルスケアが増加するも雑貨などが減少。
- ◆【コンビニエンスストア】 3月の売上高は前月比+1.4%（大和総研による季節調整値）と緩やかな増加基調が続く。化粧品やたばこが押し上げ。

図表4：ドラッグストア・コンビニエンスストアの売上高



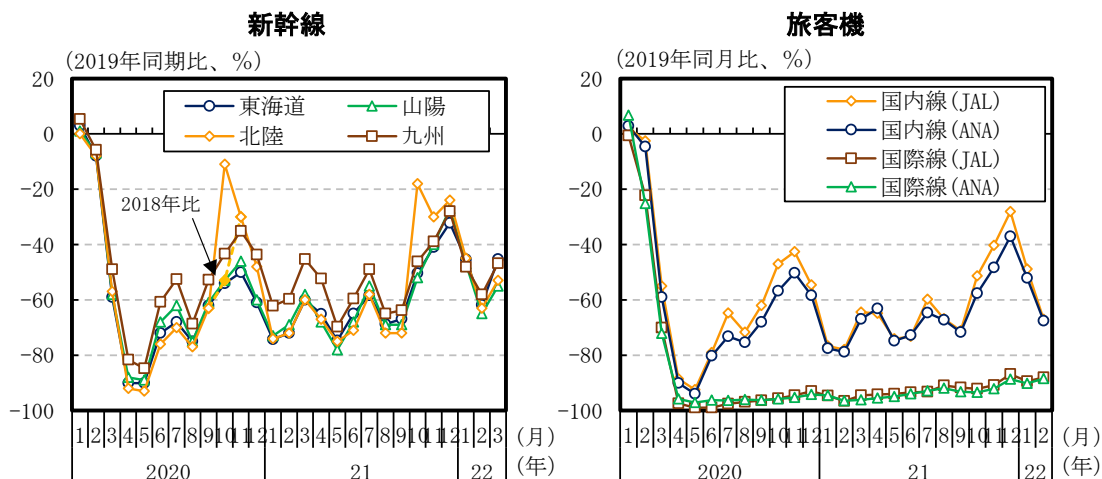
(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

## <サービス関連>

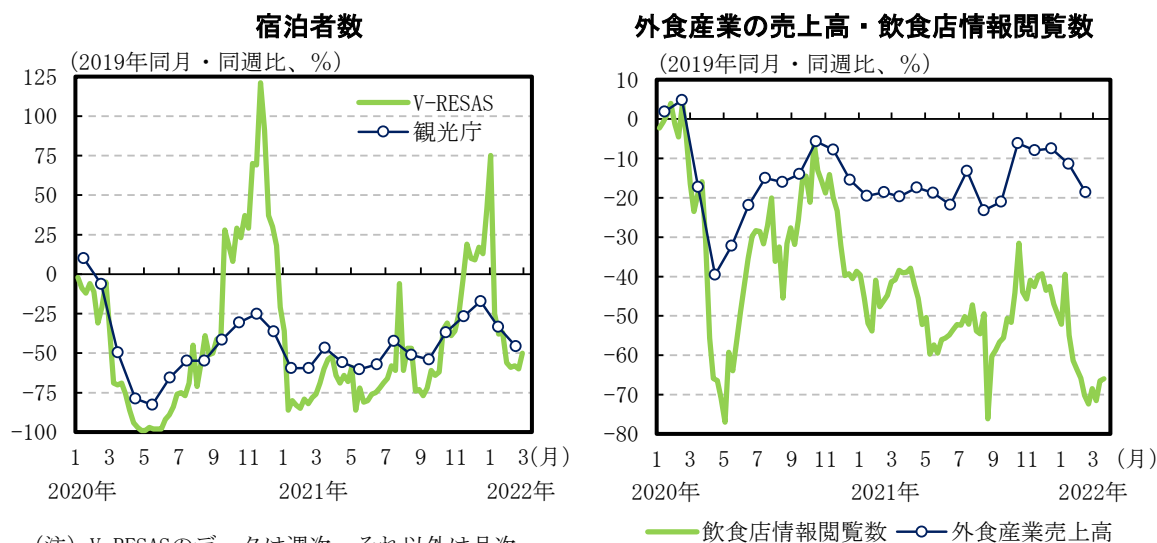
- ◆【新幹線】3月前半の輸送量は2019年同期比で5~6割減と2月からマイナス幅が縮小。一部地域でまん延防止が解除されたことで移動需要が持ち直し。
- ◆【旅客機】2月の輸送量は、国内線は2019年同月比7割減程度と1月からマイナス幅が拡大。ただし、4月の減便率は計画比1割程度、ゴールデンウィーク中は概ね計画通りと需要の回復を見込む。

図表5：新幹線・旅客機の利用状況



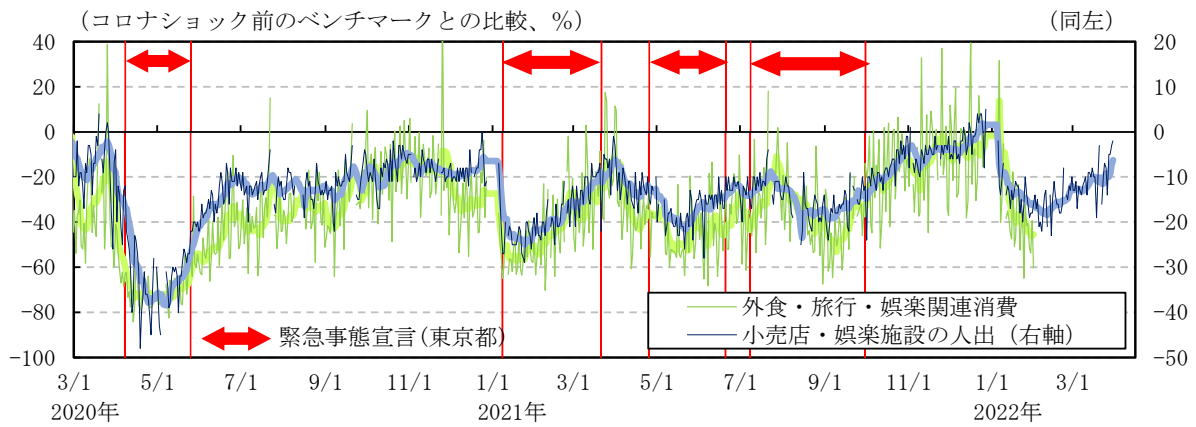
- ◆【宿泊】2月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は2019年同月比▲46%と1月からマイナス幅が拡大。感染拡大の影響が大きいものの、V-RESAS（宿泊開始日ベース）で見ると、2月下旬に持ち直しの兆し。
- ◆【外食】2月の外食産業の売上高は2019年同月比▲19%と1月からマイナス幅が拡大。3月前半の飲食店情報閲覧数は底打ちの兆し。まん延防止の全面解除で下旬以降は回復か。

図表6：国内宿泊者数／外食産業の売上高・飲食店情報閲覧数



<参考：人出・高速道路交通量>

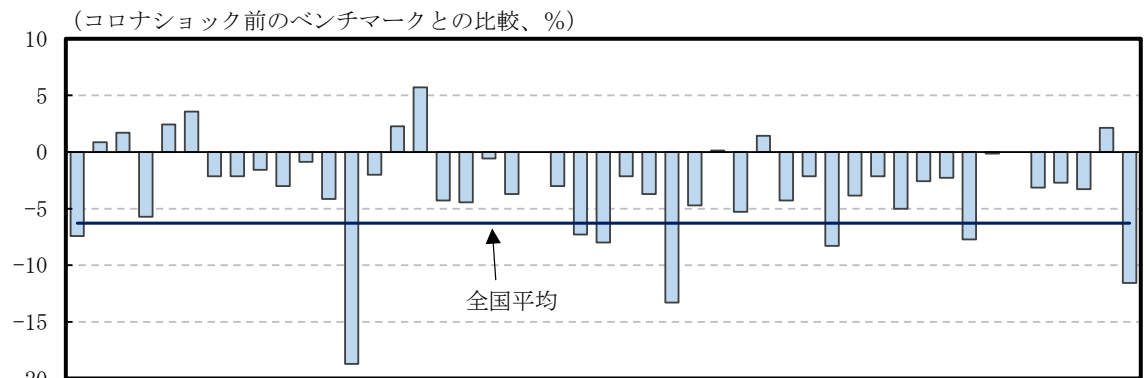
図表 7-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 3/30）と外食・旅行・娯楽関連消費



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。月～金曜日の祝日とお盆、年末年始のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 7-2：小売店・娯楽施設の人出（3/24～3/30 平均、都道府県別）

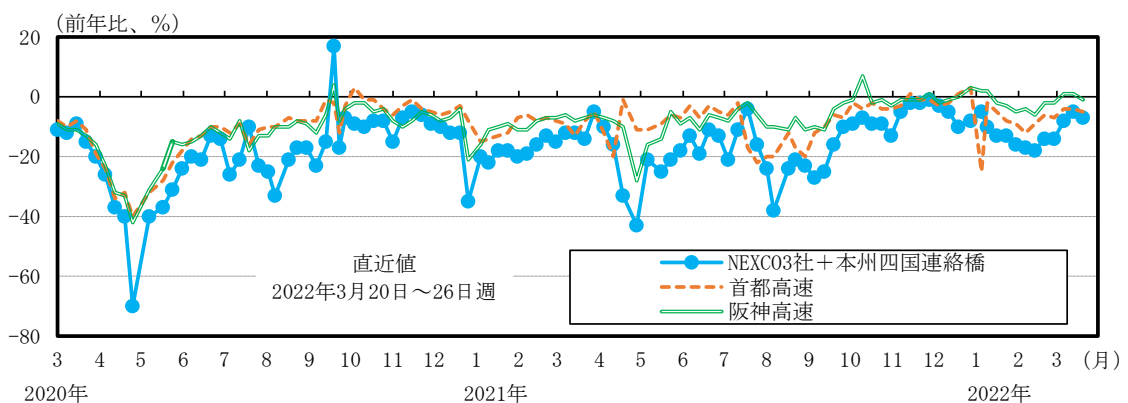


北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖  
海森手城田形島城木馬玉葉京奈潟山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄  
道 川 山 島

(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 8：高速道路交通量

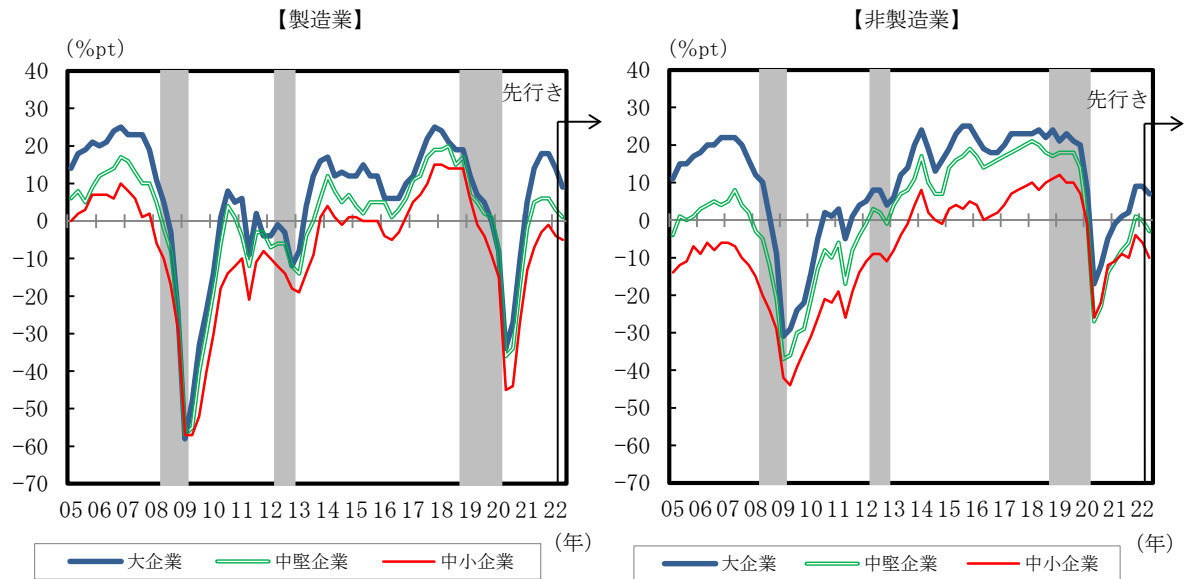


(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成

<参考：日銀短観>

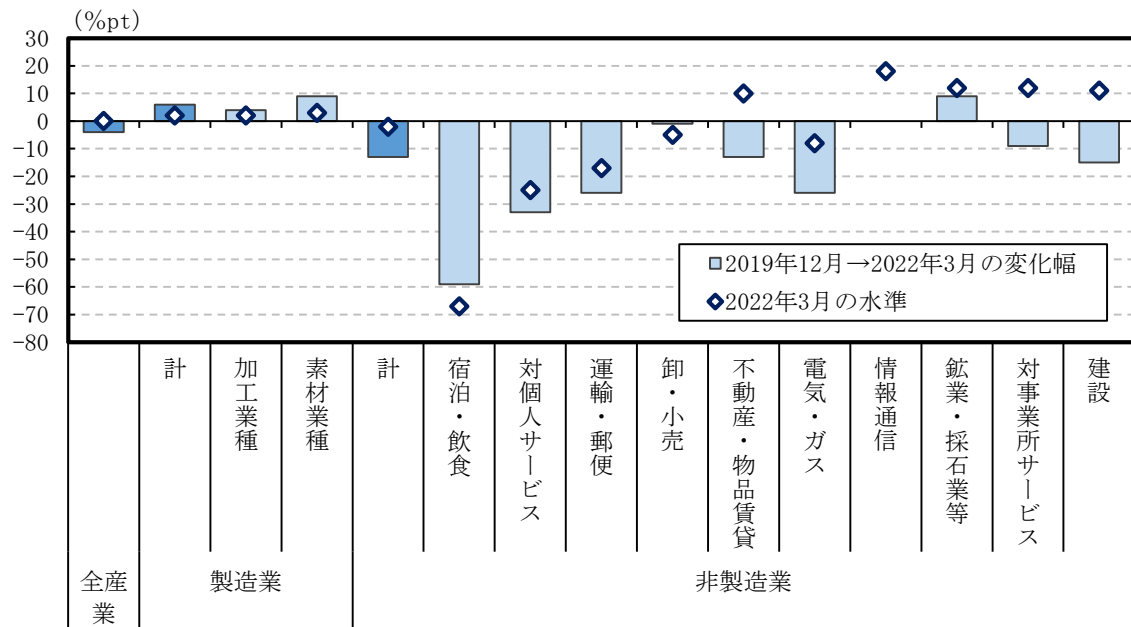
図表 9-1：日銀短観 業況判断DI



(注) シャドローは景気後退期(直近は暫定)。  
(出所) 日本銀行、内閣府統計より大和総研作成

(注) シャドローは景気後退期(直近は暫定)。  
(出所) 日本銀行、内閣府統計より大和総研作成

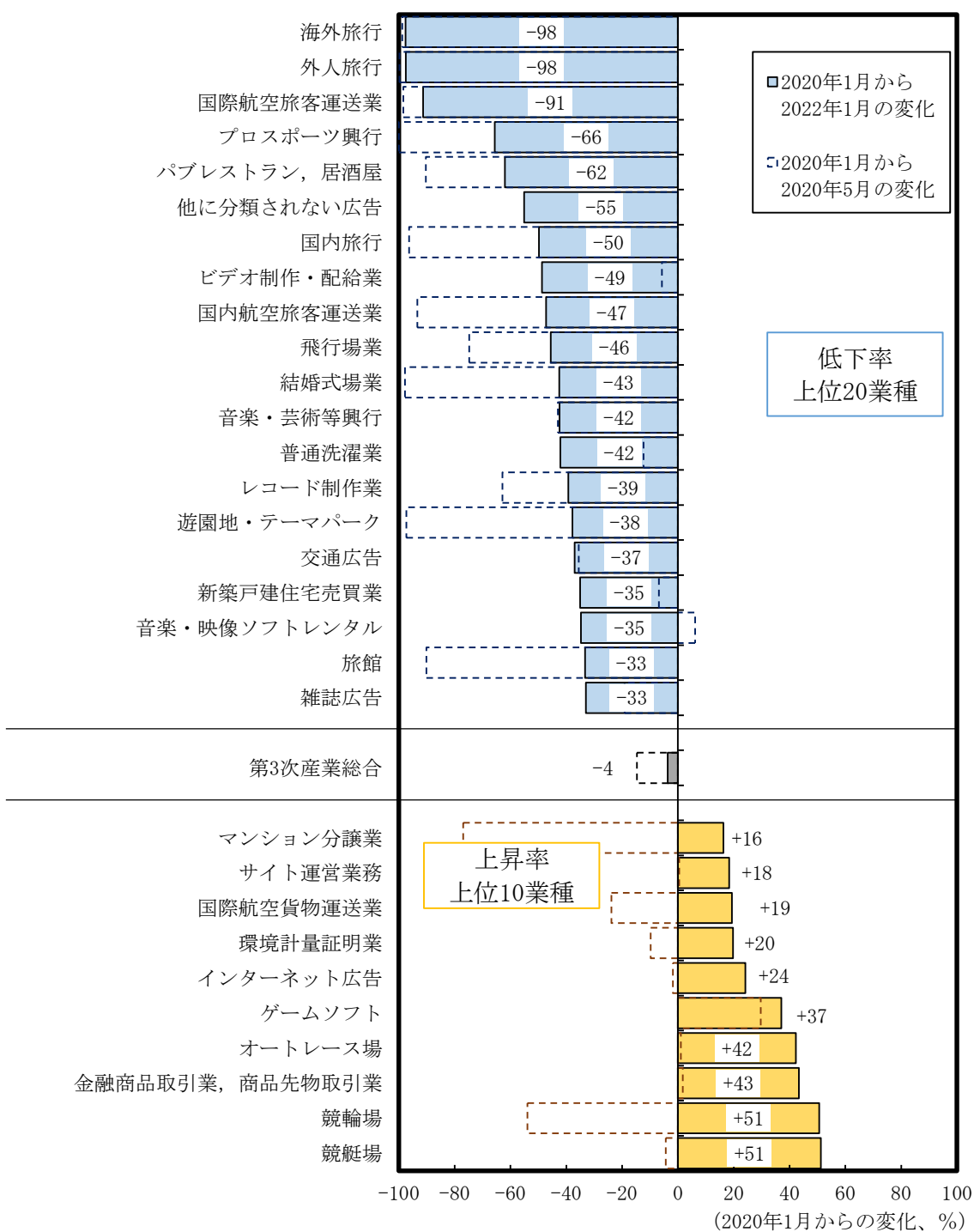
図表 9-2：日銀短観 業況判断DI (コロナショック前との比較、全規模)



(注) 全規模計。  
(出所) 日本銀行統計より大和総研作成

<参考：第3次産業活動指数>

図表 10-1：第3次産業活動指数（2022年1月）

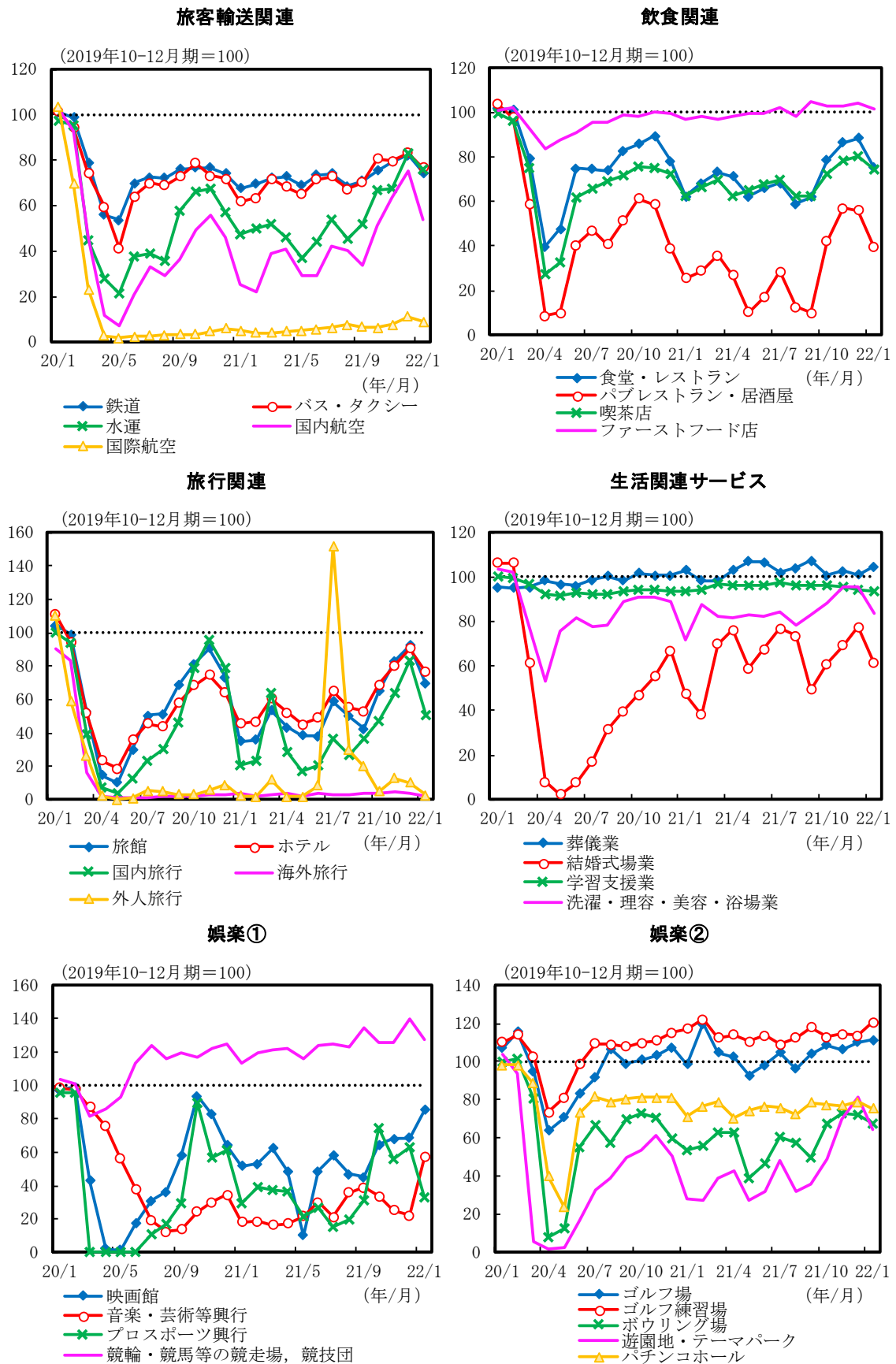


(注) 季節調整値。図中の数値は2020年1月から2022年1月の変化率。

(出所) 経済産業省より大和総研作成



図表 10-2 : 運輸業・生活関連サービス業における活動指数の推移



(出所) 経済産業省より大和総研作成